

日本鐵鋼協會第 37 回 (昭和 27 年 4 月 1 日) 通常總會に於ける表彰者

第 22 回 服部賞受領者推薦理由書
第 15 回 俵賞受領者審定書

第 19 回 香村賞受領者推薦理由書
第 14 回 渡邊賞受領者推薦理由書

服部賞牌受領者

(製鉄設備の改良並に熔鑄爐操業の改善)

八幡製鐵株式會社八幡製鐵所製鉄部長 工學士

和田 龜吉君

君は昭和 4 年 3 月東京帝國大學工學部冶金學科を卒業後直ちに釜石鑛山株式會社に奉職し、會社が昭和 9 年 2 月 1 日日本製鐵株式會社の經營となるに至り引続き同所に在勤せり、昭和 14 年 2 月清津製鐵所に赴任するや熔鑄爐の建設及び茂山貧鑛による操業の大任を果し、18 年 10 月本社に歸りては製鉄課長として同社各所の熔鑄爐を總括した。終戦直後昭和 20 年 12 月廣畑製鐵所製鉄部長から轉じて八幡製鐵所製鉄部長となり、時恰も會社未曾有の經營難に際會するや克く部下従業員を鼓舞激勵し當時我國唯一の熔鑄爐なる八幡製鐵所數基の高爐を死守し、その操業を繼續せしめた。殊に慘憺たる苦心と血のにじむ研究によつて、バンキングより高爐復活の一大目標を樹立したることは、業界恢復の先驅者としてその功績は誠に絶大なるものがある。

爾來我國鐵鋼業の復興に伴い、生産は漸次向上し會社管下の各高爐は好調なる操業を續けているが、同君米國巡察後は特に設備の改良、操業の改善に盡瘁し、殊に品質の改良に留意し、最低費を以て最高品質の生産に努め着々その成果を挙げつゝあり、更に同君がものにしたる實際製鉄法の著述は實地技術者の好箇の指針として世に汎く賞讃を博したるは既に周知の通りである。要するに製鉄設備の改良並に熔鑄爐操業の改善に貢献するところ極めて顯著である。

仍つて同君は服部博士記念資金取扱規則第 7 條により服部賞牌を受ける資格充分なるものと認める。

服部賞金受領者

(高爐操業、技術、向上)

日本鋼管株式會社川崎製鐵所製鉄部長

工學士 入 一 二君

君は昭和 11 年東京大學工學部冶金學科を卒業後直ちに日本鋼管株式會社に入社、川崎製鐵所に奉職し、偶々同所高爐建設當初に於ける同建設部に所屬し、以來製鉄

部門に於て高爐建設及び製鉄技術の向上に一貫盡力し製鉄課長を歴任、現在製鉄部長として製鉄、化工、窯業各部門を擔當している。此の間數次に涉る高爐建設に當つてはこれが完遂に全力を傾注し、又操爐面に於ても學理を實際に應用し科學的管理方法を始め工夫改良に努め、同所製鉄作業を今日あらしむるに貢献せる事極めて大なるものがある。

一方又經濟安定本部資源調査會、その他各種關係部會にも關與し、常に同社製鉄部門の代表者として活躍している、かくの如く同君は製鉄技術上に於て貢献せる功績はまことに甚大である。

仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第 8 條により服部賞金を受くる資格充分なるものと認める。

服部賞金受領者

(熔鑄爐成績の向上)

富士製鐵株式會社釜石製鐵所製鉄課囑託工師

中村 倉藏君

君は明治 37 年 4 月見習工として釜石鑛山田中製鐵所鑄鉄課に入職以來 47 年間終始熔鑄作業に従事し、特に築爐を専門として現在に至つてゐる。その間爐前作業に 10 年、築爐作業並に熱風爐作業に 37 年間勤務し、又釜石に於ける熔鑄爐の建設工事二基及び同改修工事實に 16 基に及んでおり豊富なる經驗と卓抜せる技倆は、昭和 25 年及び 26 年の 2 回に亘り廣畑熔鑄爐改修工事に招かれて指導監督に當る等、熔鑄爐作業の實務に於ける卓越せる技能は廣く一般に認められているところである。

又現場指導に當つては常に卒先事に當り、その行爲は昭和 5 年以來模範工として會社及び外部諸團體より表彰を受くること數回に及び且つ獨創的工夫を以て作業の改善を計り、戦災を被つた熔鑄爐の復舊完成並に作業成績の向上に甚大なる貢献をなした。

仍つて同君は服部博士記念資金取扱規則第 8 條により服部賞金を受くる資格充分なるものと認める。

香村賞牌受領者

(ピアノ線の性能向上其他)

株式會社神戸製鋼所研究部長

工學士 高尾 善一郎君

君は昭和4年3月京都帝國大學工學部探鑛冶金科を卒業後直ちに株式會社神戸製鋼所に入社し、昭和13年1月研究課長、同19年鍛造課長兼務、同21年熔解課長兼務、同22年製造部次長を経て昭和24年6月研究部長となり今日に至つてゐる。その間殆んど一貫して金屬材料研究を擔當し、同社研究部の今日の發展を築き又金屬材料特に鐵鋼業界の技術向上に寄與した功績は誠に大なるものがある。それ等の研究中特にピアノ線の性能向上研究は時恰も從來輸入材料に依存した斯業が戦争の爲めその供給を断たれ之れが國産化に着手せる時期に當り、原材料、製鋼、壓延、熱處理、線引の各工程に亘り詳細適切なる研究を行い、國産ピアノ線をして外國製品を凌駕する性能を得しむるに至つた。更に合金鋼並に代用鋼に對する研究はその數極めて多く、之等の結果は各學會にて發表され斯界に貢獻するところ甚大である。

仍つて同君は香村博士寄贈資金取扱規則第4條により香村賞牌を受ける資格充分なるものと認める。

香村賞金（第9條適用）受領者

（技術的管理業務の體制確立）

新扶桑金屬工業株式會社鋼管製造所技術部監理課長

工學士 大塚 武彦君

君は昭和11年3月京都帝國大學工學部機械科を卒業後直ちに滿洲住友金屬工業株式會社に入社、製管工場に勤務し、同18年12月住友金屬工業株式會社和歌山製鐵所に更に又同22年11月扶桑金屬工業株式會社鋼管製造所に轉じ、技術部監理課勤務となり現在同監理課長である。

君は日本の鐵鋼業の作業現場では從來技術的な管理部門は殆ど皆無に等しい状態であつたことを遺憾とし終戦後鐵鋼業各社に監理部門が強化され或は新設され、熱管理、潤滑管理、動力管理の體制及職務内容を確立する爲に夫々委員會が結成せられ、同君は常にそれ等の委員會に有効適切な献策をなし體制の確立及進歩就中セミガス焚加熱爐に關する研究、各種熱設備に對する計器の種別決定並に計器の保守運営に對する方策の確立、加熱爐の改善進歩、重油焚加熱爐の操爐者の教育、發生爐ガス流量測定法等に貢獻したことが甚大である。

仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9條により香村賞金を受ける資格充分なるものと認める。

香村賞金（第9條適用）受領者

（特殊鋼の鍛造品歩留向上及ブリキ板の品質向上）

東洋鋼板株式會社下松工場次長

工學士 吉崎 鴻造君

君は昭和13年九州帝國大學工學部冶金科を卒業後直ちに日本特殊鋼株式會社に入社し、同社羽田工場の建設に従事す。同15年より海軍短期現役に服務中、鐵藥莢の製造及び特殊鋼の鍛造品歩留向上に努力しその功績認めらるゝところとなり、感狀を授與された。同18年軍需官として特殊鋼工場の技術指導に任ぜられた。同21年東洋鋼板株式會社に轉じ、銳意ブリキ板の品質向上に努力し特に鋼中の銅の問題について詳細な研究發表をなし、之れが品質向上に甚大なる貢獻をした。

仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9條により香村賞金を受ける資格充分なるものと認める。

俵 賞 受 領 者

學 術 優 秀 論 文

（低炭素鋼の燒鈍脆性に關する研究）

（會誌 鐵と鋼、昭和26年11月號）

日本鋼管株式會社川崎製鐵所技術研究部長

工博博士 菊池 浩介君

技 術 優 秀 論 文

（發生爐瓦斯平爐に於ける燃焼についてⅡ、Ⅲ）

（會誌 鐵と鋼、昭和26年2月號、9月號）

新扶桑金屬工業株式會社製鋼所製造部長代理

工學博士 土居 寧文君

技術部研究課 工學士 田坂 鋼二君

渡 邊 賞 牌 受 領 者

（大型鋼材の熱處理技術、改善）

株式會社日本製鋼所室蘭製作所研究部長

工學士 阿部 富美夫君

君は昭和8年3月北海道大學工學部機械工學科を卒業後直ちに日本製鋼所に入社し、室蘭製作所研究部に勤務したが、昭和9年7月熱鍊工場に轉じ、昭和14年7月同工場長を命ぜられ終戦に至る迄11年間専ら大型鋼材の熱處理作業に従事し、その間極めて積極的に研究的に然も周到緻密な準備のもとに大型鋼材熱處理作業法の改善並に作業の能率化に献身的努力を傾け且つ顯著な實績を示した。その主なるものを挙げれば鋼塊残留應力の測定による冷却方法の研究、魚雷氣室等の水焼入實驗恒温燒鈍法の實用化等で注目すべき實績が數多く行われてゐる。

終戦後は再び研究部に移り、昭和22年3月研究部長代理兼第一課長となり昭和24年3月研究部長に累進し

第一課長を兼務して現在に至っている。

その間終始一貫誠心誠意大型鋼材の熱処理技術の改善を始め一般製品の改良研究に盡力し、その該博なる知識経験と圓滿なる人格とを以て鋭意研究に邁進すると同時に、懇切丁寧に後輩を指導して幾多の輝かしき成果を収めて來た。その主なるものを挙げれば三層鋼板を利用したブラウ撥土板の熱処理にプレス焼入を應用して形状の極めて正確なる製品を能率的に生産することに成功し、又硬面ロールの焼入装置を考案設計し功妙にして効果的な焼入方法の確立に參畫して外國製品に遜色のない優良品を製造し得るに至らしめた。更に鍛鋼及び鑄鋼ロール並に型钢の製造に當つても、特にその熱的取扱に關しては全く同君の研究結果や経験に負うところ甚大である。一方日本鐵鋼協會熱処理作業標準作成委員會の一員として活躍し特に大型鋼材に於ける作業標準の決定に當つて寄與せるもの極めて大である。

その他高壓筒材料及び不銹鋼合板等の製造法の研究並に鋼板に對するガス切斷の影響に關する實驗等頗る多方面に亘り極めて有益なる研究を行い、製鋼作業法の合理的簡略化を抱負とし、あらゆる面に於てこれを實現し大なる功績を残している。

斯くの如く君は大型鋼材の熱処理技術の改善並に進歩發達に貢獻する所極めて顯著である。

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第4條により渡邊賞牌を取る資格充分なるものと認める。

渡邊賞金受領者

(特殊鋼の熱處理特に綫狀組織の研究)

東京鋼材株式會社本社製作所研究課長

内山 道良君

君は昭和11年秋田鑛山専門學校冶金學科を卒業、京都帝國大學工學部鐵冶金研究室勤務を経て、昭和15年東京鋼材株式會社検査部研究課に入所、爾來、パネ鋼、

中空鋼の品質改善に成果をあげると共に數回に及ぶ研究發表を行つて斯業に貢獻している。就中快削鋼については本鋼が高燐、高硫黄である爲に生ずる種々の障害によつて困難視されていた經濟生産を可能にして我國に於ける同鋼製造の基礎を築き、更にその特徴たる纖維狀組織については、生成時に於ける限界冷却速度綫成長とその不可逆性等の現象を見出した。之等の研究論文は日本鐵鋼協會の講演大會、會誌、金屬誌等に發表されてその數は八編に及び學術上技術上に貢獻する所甚大である、

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條により渡邊賞金を受ける資格が充分であると認める。

渡邊賞金受領者

(特殊鋼特に高速度ダイス鋼の鍛鍊と
壓延方法の改善及品質向上)

日本特殊鋼株式會社壓延課長

工學士 丸田 隆一君

君は昭和13年3月京都大學工學部冶金科を卒業、直ちに日本特殊鋼株式會社に入社したが間もなく應召軍務に服し、昭和17年9月同社に復歸、その羽田工場水壓鍛鍊係に勤務した。昭和20年9月同社大森工場鍛鍊係に轉じ、昭和23年10月壓延課に轉じた。昭和23年10月より壓延課長として現在其の職にある。羽田工場水壓鍛鍊係の時は特に航空機用水冷曲軸及氣筒胴の鍛造方法の研究改善を行い、品質の改善と量産に貢獻する所多大であつた。壓延係となつてはロールの孔型附屬設備等の研究改良を行い、當時殆んど壓延不可能とされていた高コバルト高速度鋼(JIS高速度鋼三種四種)高炭素クロムダイス鋼(JISダイス鋼一種)の壓延を可能ならしめる等高級鋼の製造に甚大なる功績を示した。

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條により渡邊賞金を受ける資格充分なるものと認める。